



# この子らの笑顔を守ろう

## ジャフナ地域に教育支援を開始

昨年の夏、CPIとSNECCは26年続いたLTTEとの旧内戦地・スリランカの北部(特にジャフナ地方)を調査しました。

その結果、疲弊した市民の生活の中に「教育の重要性」が芽生えてきていることを見て、里子支援の必要性を強く実感しました。そして、本年度から 98 人の里子支援が始まりました。

今回の調査の目的は、ジャフナ地域の生活環境と新里子たちの生活の実態と意識調査でした。

## 現地調査報告

C. P. I. Japan

事務局長 山川洋一



## 平和を実感し、明日への希望にかがやく

### (1) 旧内戦地域は平和を取り戻しています。

住民は生活の向上をめざし、子どもたちは希望を持っています。子どもたちの笑顔は輝いています。

C.P.I.とSNECCは協働して、この笑顔を守るために教育支援を開始します。

### (2) 地域ベースキャンプ(Orussan Camp)

軍は地域住民と密着し、生活の安全をカバーしています。困っている家庭や子どもの世話を積極的に行っています。今回の我々の調査にも常に先導し、同行して取材に協力してくれました。



Orussan Camp

### (3) 市民病院は人々の健康を守っています。

この病院は地域の中心的综合病院です。1800 年代イギリス支配地だった頃のもので建物は古かった。しかし中は清潔に管理され、昨年の厚生省の「清潔賞」でトップに輝いています。

スリランカでは日本のような国民健康保険はありませんが、治療費無料化政策によって、市民は安心して医療を受けられるようになっています。



Base Hospital



#### (4)キリスト教会は子供たちをサポートしています。

キリスト教会は孤児院の役目を果たしてきた。内戦終了後、困窮する子供たちへの勉学の援助もしてきた。SNECCの地域センターは全て寺の僧侶が担ってきていました。しかしジャフナ地域はキリスト教会の牧師に委ねることになります。従来から地域社会への奉仕事業についての理解が深く熱心であるので問題はない。現在ジャフナには2つの教会を地域センターとしてお願いしています。ただ、牧師の定期異動により、方針が変わることが懸念されます。日本からの教育里子支援を行うことにより、現地でのキリスト教会による援助体制を定着させてゆくことを可能にしたいと考えています。



弾痕も修復された聖マリア教会

#### (5)破壊された校舎は新築されました。

壊された校舎や、荒廃した校舎は新築、改築されていた。生徒たちは真剣に勉学に励んでいる。子供たちには継続的な教育支援が望まれている。C.P.I.とSNECCは、永年培ってきた実績を活かして、旧内戦地域を応援します。子どもたちは、教会の塾に通い、学習を受けている。ダンス

や空手なども彼らの放課後の楽しみの一つです。彼らの笑顔は明るい。この子たちの笑顔を守らなければスリランカの平和は守れない。アジアの平和は、日本人の生活を守る砦です。C.P.I.の教育里親制度によって応援してゆきます。



新築された校舎で生徒達の顔も明るい



訪問したときはちょうど期末試験でした

**復興への道、インフラは整備され、町に活気がよみがえってきています。**

#### (6)内戦で破壊された農村地域

北部の荒廃した農村を早く復興しなければならない。避難キャンプからの帰還も増えている。住宅援助やトイレ、水道の整備に国も力を注いでいる。しかし戦場となった焦土は殆ど農地にはなっていない。

LTTEによって農地や林に埋設された地雷の撤去は、まだ終わっていない。実り豊かな田園の開発が待たれる。そのためにも地雷の撤去が急務である。



稲は二毛作できる。安心して農作業が出来る日を待つ



←戦場だった土地は荒れたまま。



地雷埋設のための立ち入り禁止札

←地雷



## (7)交通網の整備が進んでいる

北部の線路はLTTEによって兵器を作るために取外されてしまった。ようやくその線路の復旧作業が始まった。しかし、ジャフナまで完全復旧の目処は立っていない。

幹線道路も集中工事で復興されつつある。舗装された2車線、中央分離帯のある道路は、今までのスリランカでは見られない道路整備である。しかし、歩道が無視されているのは残念だ。

幹線が完全に整備されれば、コロンボ＝ジャフナは陸路で7時間になり、旅行も楽になるだろう。新しい平和と豊かな国をめざして、国土作りが着々と進んでいるようだ。



工事が進む幹線道路



復旧が進む鉄道

## (8)ジャフナの街中は賑わっている

内戦が終わって3年になる。市民の生活は安定してきているようだ。町には活気が感じられる。ビルの新設工事が目立ち、車、オートバイの往来も増えている。特に自転車の通学生徒が目立つ。それは路線バスが少ないため、自転車がないと通学できない地域の子がいるからだ。新装のスーパーでは多くの買い物客で賑わっていた。



スーパーマーケット



新築工事が目立つ街中。牛を避けて走る車



自転車は学生の必需品になっている

## この家族の笑顔を守りたい

### 父の帰りを信じて頑張る マリヤ・プリンシーさん 13歳

国連のUNHCRは、LTTEの組織暴力から逃れて避難キャンプにいた多くの家族の帰還を推進している。やっと故郷に戻ってきた。マリヤさんの家族も、2年前に戻ってきた。そこに建てた草葺の家は2年以上経っても改修できていない。7年前に父は突然姿を消した。終戦後3年にもなるのに、いまだに音信がない。

「LTTEにさらわれ戦死したのでは・・・」と近所の人はいう。しかし家族は信じてはいない。だから、この家で父を待つ。

この家は叔父たちが造り直してくれた。しかし、草葺の壁と屋根でとても住み心地のいい家ではない。風が強い日には目を開けておれないくら



兄と母に愛されているマリヤさん

い砂が舞い込んで来る。

母親は「学校の寮に入れてあげたい。もっと勉強させてあげたい」と言う。しかし月2000ルピーはとても負担できない（一日2食、家族4人で200Rs）彼女の収入源は、1頭の牛が産出す牛乳と5匹の鶏が産む卵の代金だけなのだ。マリヤさんは、勉強に熱心で成績も良い。住宅の課題も大きいがこの子を教育里子として勉強を支援することで、私たちはこの家族の笑顔を守りたいと思う。

## 将来、医者になりたい。父には会えないが寂しくない

小柄だが精悍な顔立ちをしていた。父は100km離れた町でトラックの運転手をしている。2月に一度しか帰ってこない。兄と弟二人で母親との生活だ。父親とは会えなかったが携帯電話で話ができるから寂しくないという。机の上には古びた携帯電話が置かれていた。

36人のクラスで常に1、2番だ。CPIの奨学金をもらって励みになっている。スリランカには病気で亡くなる人が沢山いる。そんな人たちを助けたいから医者になりたい。幸せな家庭を築きたい、と将来の希望を語る。

ニルシヤンタ君（13才）



机の上に携帯電話が置かれていた

旧内戦地の子供たちへの支援は始まったばかりです。多くの子どもたちがCPIの支援を待っています。タミール系とシンハラ系の人たちの交流も必要です。平和な国造りのリーダーを育成してゆく必要があります。多くの教育里親を求めています。どうかご協力ください。

## スリランカ フェスティバルに出展

9/8、9 東京代々木公園で行われたフェスティバルにCPIブースを出展した。

“この笑顔、守りたい！”をテーマに、旧内戦地域の子どもたちへの支援を訴えた。

日本折紙協会の協力で大型の象の折紙を飾り、会場の人気者になった。

多くの会員の方、一般来場者に旧内戦地域の復興と子供たちの生活環境を写真パネルで説明し理解を得た。

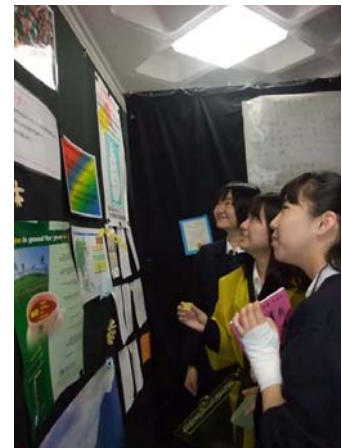


折紙の巨大な象がCPIブースの目印になった

## 普連土学園 学園祭 で大きな評価

フレン<sup>ド</sup>普連土学園（東京港区）は10/20に第50回学園祭を開催した。同校はキリスト教系の中高一貫校で、生徒たちの国際理解を深めるため国際交流に力を注いでいる。CPI会員として毎年6人の里子を支援している。

今回は中等部国際親善部がスリランカの歴史と産業について研究発表を行った。CPIの教育里親制度と北部、旧内戦地域の実情を当会のパネルを利用して発表し、多くの学園内外の人々に理解をしてもらった。



**C.P.I.小西会長の活動近況を、『フェイスブック』で  
ご覧いただけます。友人、知人にもご紹介ください。**

**<http://www.facebook.com/kikufumi.konishi>**

「若い人たちを育てたい」「スリランカ、インドネシアで見聞きしたこと」「活動の近況報告」をテーマに、教育里親制度の内容が、やさしく語られています。

ご友人にも、このサイトのご紹介をお願いします。



# 里子交流会 盛り上がる 九州北部地域会 開催

2012.8.30～9.3

報告者：九州北部地域会 世話役代表  
佐竹芳郎

スリランカ・フェスティバルに参加のため来日したSNECCの一行7人が、チャンダシリ事務局長、ハルシャさんの引率で福岡を5日間訪れました。CPIの広報のための催し物や交流会に参加し、地域会や一般の方たちと交流を深めました。

## 「スリランカ民族舞踊の夕べ」を開催 60人参加

9月1日(土) 建立寺\*で開催（福岡市中央区）  
（\*建立寺は教育里親の三笠さんのお寺です）

16時から九州在住の教育里子卒業生体験発表をして頂きました。これは教育里親制度の成果を知ってもらう目的のイベントとして、九州大学生のAnushaさんと九州大学博士課程のDinushaさんからして話して頂きました。両人ともスリランカでの勉強後、更に、向学心を持つ



挨拶するダンサー一行

て留学生として来日した強い動機といきさつ、日本での勉強の様子などを熱っぽく話して頂きました。両人ともCPIへの感謝の気持ちを表現してくれました。（後述）

## スリランカ民族舞踊に拍手喝采

17時から本格的なスリランカ民族舞踊を4人の教育里子が踊ってくれました。ミヒラ君（22）、女性のネルツムさん（21）、オスリさん（15）、トゥランガーさん（13）です。とてもスタイルが良く、きれいな顔立ちで、良く揃った踊りをキビキビと踊り、観衆は大喜びでした。民族衣装も素晴らしく、衣装も数回着替えてくれました。その他、女性のドゥラーンジャリさん（17）は、日本語で日本の歌を、そしてスリランカの歌を数曲感情込めて歌ってくれました。踊りも歌も両方とも素晴らしい出来栄でした。



華麗なダンスは皆を魅了した

## おいしいスリランカ カレーに 大満足

18時から、交流会で、参加者は60人を超え大盛況でした。手作り料理など色々多く並べられ、楽しく歓談しながら交流しました。スリランカ人のピーターさんが作ってくれた、豆カレーなど3種類の本格的なスリランカカレーはとても美味しく、あっという間に無くなりました。

地元のケーブルテレビ局が、全体の取材に訪れてカメラを回していました。この催し物で、福岡市民に、スリランカの文化の紹介とCPI活動が好意を持って伝わったのではないかと思います。



盛り沢山の料理に箸がすすむ

## 阿蘇山、熊本城に感激

一行を地域会の会員が著名な観光地を案内しながら交流しました。福岡市内、大宰府天満宮、阿蘇山、熊本城などです。特に、日本庭園、神社、お城などの日本の伝統文化の見学、阿蘇山火口噴火活動の初めての体験は、印象に残っているのではないかと思います。スリランカの皆さんが、福岡の滞在を喜んでくれて、更に日本を好きになってくれればと願っています。



阿蘇山噴火口にて

## 今の気持ちを日本とスリランカの絆に役立たせたい

私は小さい頃から先生になりたいと思っていました。10歳の時SNECCで日本語をならってから、日本語が大好きになり、何時の日か『日本語の先生』に憧れるようになりました。ALの時、日本語教科をトップで合格し、ますますその気になっていました。CPIの里親さんと日本語で文通するときは心がはち切れるように夢中になって手紙を書きました。その時のことを今でも思い出し涙が出ます。

1995年、C.P.I.とSNECCの『日本語弁論コンテスト』一位になり、里子代表で東京に来る機会を与えられました。その時から日本が大好きになり、日本語を勉強する気になりました。大学生のとき、日本の文部省の推薦を受けて日本語と英語の研修生に選ばれ、埼玉で6ヶ月の研修を受けることが出来ました。それが私をさらに日本語への憧れを大きくしたのではないのでしょうか。

私は大学を卒業しスリランカで日本語を教えていましたが、まだ、自分の日本語が未熟なことを自覚していました。既に私は結婚していましたが、日本の文部省の推薦で信州大学で勉強する機会を得ました。

そして2012年4月九州大学で博士課程の入学をすることが出来ました。私の日本と日本語への深い心情はC.P.I.とSNECCの支援が後押しをしてくれたお陰です。

日本に来たのは4回目です。そして毎回、多くの機関や人々に援助をいただいています。特に今回は日本の里親さんや九州のC.P.I.の方々に貸家や電化製品までお世話していただきました。夫と娘と3人家族が福岡で研究を中心にした生活を楽しんでいます。

本気で日本を愛し、愛されている今がとても幸せです。

九州のC.P.I.の皆様の深い愛情に感謝しております。ありがとうございました。

そして、これからも私達のスリランカの後輩の支援をよろしくお願いいたします。

## 卒業里子 デヌーシャさん



愛しい娘と挨拶に立つデヌーシャさん

## バイトと言語学習でフル活動

### 卒業里子 アヌーシャさん

来日して4年、九州大学で言語学を学ぶ。生活風習の違う日本の生活に最初は苦勞した。



アヌーシャさん

まず、経済的に大変で寝る時間

も惜しんでバイトをした。食事也十分に出来なかった。バイト先では嫌がらせを受けたり、辛いこともあった。でも学生の仲間はとても良くしてくれた。C.P.I.の方々や理解者も私を助けてくれた。今では博多弁で喧嘩も出来るようになった。辛抱が私を大きくしてくれたと思う。小さいころから支援してくれた里親さんに会いたい。そして国に帰ったら里親になって後輩を育てる立場になりたい。流暢な日本語で抱負を語った。



# 里子たちとの深い交流と6つの世界文化遺産観光

今回は、里子交流と8つの世界遺産のうち6か所を巡るという、欲張ったスケジュールでしたが、みんな元気いっぱい、里子との交流や観光を楽しみました。

報告者：理事 牟田慎一郎



8/24(金)、成田から4名、福岡から2名の計6名は、香港・シンガポール経由でスリランカへ向かい、24時にコロombo空港へ到着。(私は別便で先行)

翌25日、早朝SNECCへ。チャンダシリさんをはじめ多数の出迎えを受け、先ず、パゴダへお参りし、旅の安全と健康のお祈りを受けながらミサンガをつけてもらいました。

### 里子との絆を感じた時間



この日は、それぞれの里子との面談の日です。次々とやってくる里子たちと感動の対面をしながら、職員の皆さんの通訳で、子どもたちとの会話を弾ませました。里子の成長にみんな胸いっぱいの思いを抱きながら、いろんな質問をしたりプレゼントの交換をしました。昼食後もしばらく歓談したあと、名残を惜しみながら里子たちと別れました。



午後は、日本語クラスの生徒たち50人とゲームやダンスなどで交流し、夕方、里子代表団として来日する予定の皆さんの歌と踊りを鑑賞しました。素晴らしいパフォーマンスに、みんな感動でした。私もハーモニカとオカリナ演奏で、謝意を表しました。

### 文化三角地帯とサファリの観光を満喫

26日は、8時にホテルを出て、一路北へ針路をとり、アヌラダプラヤミヒンタレを観光した後、ダンブッラのアマヤレイクホテルのコテージに宿泊。

27日は、ポロンナルワ観光、そして3時過ぎから

約2時間、サファリを体験。200頭を超える象に出会うのは、本当に圧巻でした。

アマヤレイクホテルでの夕食は、思いもかけずガーデンパーティ形式のディナーでした。広い芝生のなかに配置された数々の料理に、まるでおとぎの国でのもてなしのような気分になりながらのひと時を過ごしました。



28日は、早めにホテルをでて、シギリヤロックとダンブッラの石窟寺院を見学し、

キャンディに移動しました。4名のみなさんは、アユルヴェーダ（ハーブオイルマッサージ）を体験しご満悦でした。

宿泊は小高い丘の上の見晴らしの良いアマヤヒルホテルでした。

29日は、キャンディから2000mの高地であるヌワラエリヤへ移動。途中、紅茶工場を見学し、夕方は、北川さんの里子の家をみんなで訪問し歓待を受けました。家族の皆さんの温かいところと素直なこどもに出会い、貧しいながらも心の豊かさと幸せを感じさせるひと時でした。



築150年の英国調のグランドホテルでの宿泊はタイムスリップしたような一夜でした。

30日は、とうとう最後の日。コロomboに帰り市内のおみやげものの店で最後の買い物を楽しみ午後7時にSNECCに到着。夕食後空港へ。

(一行の皆さん、ご苦労さまでした。牟田)



## スリランカ 現地事務所から

### 日本からの発信で広まった 「5S運動」の成果とは

#### ☆ 清潔な街づくりが進められている

スリランカの教育里子たちは、毎朝、当番を決めて私たちの施設の掃除をしてくれます。



奨学支援をはじめたとき、生活習慣の学びあいということもテーマにしました。

スリランカには、親を大切にするとか、体の不自由な人をすすんで助けるとか、日常的に福祉社会を実現する行為をよく見かけます。学びたいところです。

スリランカの5S運動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)のうち、整理・整頓・躰はよくできていると思えます。

一方、トイレの使い方が汚い、道に平気でゴミを捨てる、このような習慣を改めたいとは、日本へ研修に来た誰もが言っていたことでした。

C.P.I.と協力団体SNECCが協働して本部施設を建てたとき、現地責任者でありお坊さんでもあるチャンダシリ僧侶は率先してトイレ掃除を始め、それを見ていた職員たちが境内の掃除を始めました。

そのうちに、日曜学校に来ている教育里子たちは、庭の掃除は自分たちがしたいと、毎朝、当番制で掃除を始めました。

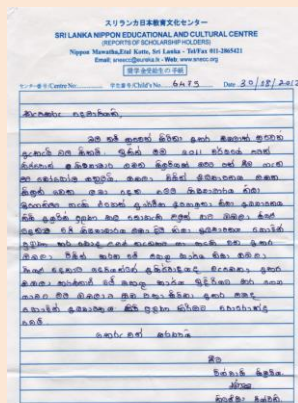
清潔と清掃が進み、あと車の排気ガスを解決すれば、南西アジアで一番きれいな国になるでしょう。

ちなみに、現在のコロンボの街は、副大統領の号令で、街のゴミ一掃作戦を展開しており、ゴミは、ひとつも落ちていません。

### ☆「わかる」とは「変わる」こと

教育里子が日本に送ったこの手紙を見て下さい。紙を大切に使い、きれいな字で、きちんと書かれています。

字は生活に現れると言いますよね。教育里子たちは、皆んなまじめで、生活態度のよい子どもたちです。



学校の勉強でも、ノートが無駄にせず大切に使っています。この文字は、その表れです。

日本のこどもたちはどうでしょうか？

もしも、皆様の周囲で、ノートを書き散らし少し書いては飽きて捨ててしまう子どもがいたら、スリランカの貧しい家庭でも頑張っている子どもの書いた、この手紙を見せてあげてください。

その里子がいる家庭の様子、そのなかでノートをいかに大切にしているかを話してあげてください。

人間は、『そこにいるつもり』になって考えることで、変わることができるものです。人のことが『わかる』のは、『かわる』ことだと思います。

『そこにいるつもりで国際協力』を大々的に推進している活動に、オランダの団体NOVIVの《食卓の貯金箱》運動があります。

NOVIVも活動のひとつとして教育里親活動を進めています。なんと、成人の90%近くが教育里親として途上国の教育支援をしています。NOVIVの会員は、毎週日曜日には、『途上国の教育里子を食卓に招いたつもり』で、その国や里子のことを話題にし、《食卓の貯金箱》にその子どもの食事分を入れるそうです。

そのお金が、支援金となるのですね。

これなら、家庭の子どもたちの勉強にもなり、小さな頃からほかの国の子どもたちへの慈しみと親しみの習慣ができますね。

アジアの子どもたちの教育支援をしているC.P.I.の教育里親さんは、現地の子どもたちに気持ちを寄り添わせ、学校教育を続けられるよう支援をして下さっています。教育里親運動を、より一層、暖かい気持ちの通いあいを進める活動に致しましょう。